

令和7(2025)年度
運営に関する計画・自己評価

中間評価

大阪市立梅香中学校

大阪市立梅香中学校令和7(2025)年度運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

校内アンケートでは「学校のルールを守っている」と感じている生徒の割合がここ数年9割を超えている。これは生徒一人ひとりが主体的に行動し、自制心や判断力が身につけてきた証だと捉えている。また、「楽しく学校に通っている」や「授業が楽しい」、「自ら考えるようになった」の質問項目でも肯定的に回答する生徒の割合が7割を超える等、増加傾向にある。学校安心ルールの下で、落ち着いた学習環境・雰囲気の中で日常的に生徒が楽しく学校生活を過ごせるようになったことは人権学習や道徳等の実践を積み重ねてきた成果である。現在、「あいさつ」ができていない学校、部活動の充実した学校、夜間遠足のある学校として保護者や地域の方々からの評価も高まってきている。今後は生徒の学力向上に重点を置いた学校づくり、カリキュラムマネジメントの充実が喫緊の課題である教職員が一丸となってより一層、教職員の資質の向上と生徒への質の高い授業を提供する等、保護者ときめ細やかな連携を図っていく。

チーム梅香中学校は、課題解消のため、校区小学校や此花区役所との連携を積極的に推進していく。課題の学力面をテスト結果から分析すると、チャレンジテストによる評定平均が下位層にあることがわかる。「平均正答率」では、すべての教科において大阪府、大阪市のそれより下回っている。また、昨年度の全国学力学習状況調査においても同様である。学校元気アップ事業や、今年度より始まる学校力向上支援チーム事業を効果的に活用し、放課後学習会や定期テスト前の自主学習会を充実させることで成果を期待する。

さらに、こどもサポートネット事業を活用し、生徒の学習規律の改善や環境の整備、生活指導における支援を通して、生徒の家庭学習の定着や規範意識の醸成を図るとともに、基本的な生活習慣の構築不足を改善していく。また、学力への課題や心身の健全な育成を促すことで、生徒が「夢」や「目標」を持てるようなキャリア教育の創意工夫と様々な深い学びを通して、生徒の向上心や達成感を刺激し、一人ひとりの自尊感情を養うことをめざす。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- 毎年度末の校内調査において、不登校の児童生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。
- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査において、学校で把握した児童虐待の個々のケースについて、必要な対応をした割合を、毎年100%にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、令和3年度より10%増加させる。
- 令和7年度の学校評価アンケート(生徒用)において、「学校では、生命の大切さや仲間の大切さを学ぶ機会が多い」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、令和3年度より5%増加させる。

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の思考・判断・表現(言語についての知識・理解・技能)に関する項目の平均正答率を、令和3年度より4ポイント増加させる。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の平均正答率5割以下の生徒を、令和3年度より10ポイント減少させる。
- 令和7年度の学校評価アンケート(生徒用)において、「わたしは、授業を通して、基礎的・基本的な学力を身につけている」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、令和3年度より5%増加させる。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和3年度より0.1ポイント向上させる。
- 規則正しい生活を身につけている生徒の割合(全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合)を令和7年度調査において、80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「1、2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童(生徒)の割合を、100%にする。
- 令和7年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童生徒の割合を、100%にする。
- ゆとりの日については、週1回以上設定する。また、学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査・校内調査の「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」に対して、肯定的に答えない生徒の割合を、令和3年度より15ポイント減少させる。
- 令和7年度の学校評価アンケート(保護者用)において、「学校には、他の学校にない特色がある」の項目において、肯定的に答える保護者の割合を、令和3年度より10%増加させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 令和7年度の学校評価アンケート（生徒用）において、「わたしは、楽しく学校に通っている」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、令和6年度より2%増加させる。

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を50%以上にする。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、前年度より0.02ポイント向上させる。
(学校独自の目標)
- 令和7年度の学校評価アンケート（生徒用）において、「授業はわかりやすい」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、令和6年度より2%増加させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90.7%以上にする。

(最終評価で記載)

大阪市立梅香中学校令和7(2025)年度運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準

A: 目標を上回って達成した

B: 目標どおりに達成した

C: 取り組んだが目標を達成できなかった

D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年度目標 | 進捗状況 |
|--|------|
| 【安全・安心な教育の推進】 ○ 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。 ○ 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を昨年度より減少させる。 ○ 令和7年度の学校評価アンケート(生徒用)において、「わたしは、楽しく学校に通っている」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、令和6年度より2%増加させる。 | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 | |
|---|-----------------------------|-----------------------|
| 取組内容1【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 | | |
| ・慎重な生徒観察を軸に生徒指導に関する情報交換を密に行い、生徒状況の把握に努め、初期対応を逸しないよう心掛けるとともに「いじめについて考える日」の活用を図る。 【指標】 「いじめについて考える日」を5月に実施するとともに、生徒理解の取り組みとして、年度当初の生活指導研修の実施、年間2回の教育相談を実施し情報共有する。 | 生活指導部 | B |
| 取組内容2【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 | | |
| 不登校の生徒に対しては、学年団を中心にその状況を適切に把握するとともに、不登校対策委員会を機能させ、学校元気アップコーディネーターや学校力UPコラボレーター、スクールカウンセラーと連携し、より丁寧な対応を心がける。 【指標】 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を昨年度より減少させる。 | 生指 不登校 1年 2年 3年 | B B B B B |
| 取組内容3【基本的な方向2 豊かな心の育成】 | | |
| ・教科書を基本に、生き方に関する感性や自尊感情を養うとともに年間指導計画に基づき、人権に対する感性を養う。 【指標】 週1回の道徳授業とともに、週1回の全校集会、学年集会を開催する。 | 道徳 生指部 | B B |

大阪市立梅香中学校令和7(2025)年度運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準

A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年 度 目 標 | 進捗状況 |
|--|------|
| <p>【未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>○ 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 50%以上にする。</p> <p>○ 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、昨年度より0.02ポイント向上させる。</p> <p>（学校独自の目標）</p> <p>○ 令和7年度の学校評価アンケート（生徒用）において、「授業はわかりやすい」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、令和6年度より2%増加させる。</p> | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 | |
|---|------|---|
| 取組内容4【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 | | |
| すべての学習の基盤となる言語能力等の育成を重視し、主体的・対話的で深い学びの視点から学習・指導方法の改善を図るための実践研究を行い、成果の共有を図る。 | 国 | B |
| 【指標】 一人1回以上の研究授業を実施し、指導方法等について意見交換を行い、改善を図る。 | 社 | B |
| | 数 | B |
| | 理 | B |
| | 音 | B |
| | 美 | B |
| | 保体 | B |
| | 技家 | B |
| | 英 | B |
| 取組内容5【基本的な方向5 健やかな体の育成】 | | |
| 授業において、重点的に持久力を向上させる内容を実施するとともに、体育的行事の実施回数を増加させる。 | 保体 | B |
| 【指標】 保健体育授業において、持久走を実施するとともに、令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である男子20mシャトルラン（持久力）の平均の記録を、昨年度より0.02ポイント向上させる。。 | 育 | B |
| 取組内容6【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 | | |
| インクルーシブ教育システムの充実と推進をはじめ、生徒一人ひとりの能力や特性に応じた指導等を充実させる。 | 1年 | B |
| 【指標】 各教科においては、ペア学習、グループ学習を実施するとともに、各学年、特別支援においては、長期休業期間やテスト前学習等を活用して学習会等を実施する。 | 2年 | B |
| | 3年 | B |
| | 国 | B |
| | 社 | B |
| | 数 | B |
| | 理 | B |
| | 音 | B |
| | 美 | B |
| | 保体 | B |
| | 技家 | B |
| | 英 | B |
| | 特支 | B |

大阪市立梅香中学校令和7(2025)年度運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| | |
|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | |
| A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年 度 目 標 | 進捗状況 |
|--|------|
| <p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○ 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕</p> <p>○ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90.7%以上にする。</p> | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 | |
|---|-------------|---|
| 取組内容7【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 | | |
| 一人一台パソコンを利用して教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進を図る | I C T | C |
| <p>【指標】 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数を、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕</p> | | |
| 取組内容8【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 | | |
| 働き方改革のさらなる推進を図り、教職員が働きやすい環境を整備する。 | 管 理 職 | B |
| <p>【指標】 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90.7%以上にする。</p> | | |

| 年度目標における取組の進捗状況の結果と分析 および 後期に向けて | | |
|----------------------------------|-----|--|
| 取組内容① | 生指部 | 教育相談は1学期に実施し、3学期にも実施を予定している。いじめアンケートは毎学期実施しており、アンケートの結果を踏まえ必要に応じて各教員が生徒と面談を行っている。また、日常の表情や行動から現れる小さな変化やサインを見逃さないよう注意深く観察し、問題が大きくなる前に対応できるように努めている。 |
| 取組内容② | 生指部 | 各学年で不登校生徒が増加している状況を踏まえ、家庭と連携を図りながら対応を進める。必要に応じて外部機関との連携も密にし、生徒への支援体制を強化していく。 |
| | 不登校 | 7月中旬に開設して以来、毎日利用生徒がいる状況。今後も学校と家庭との連携を取りながら、不登校生徒の削減に努めていく。 |
| | 1年 | 各学級担任を中心に家庭連絡を取りつつ、「ふらっとルーム」も活用しながら登校を促している。 |
| | 2年 | 「ふらっとルーム」を利用している生徒が3名。担任やサポートルーム担当が保護者と密に連絡を取れている。またスクールカウンセラーや関係諸機関と連携を取りながら、対応を続けている。 |
| | 3年 | 昨年度は来れていなかったが少しずつ登校日数が増えてきた生徒もいれば、今年度に入って学校に来にくくなった生徒もおり、不登校生徒数は昨年度とあまり変わっていない。ふらっとルームを活用できている生徒も複数名いる。SCとの連携や保護者への連絡は密に取れており、進路についての話もできている。 |
| 取組内容③ | 道徳 | 1学期中に校内道徳研修会を実施することができた。各学年、行事等で道徳の授業が変更になることはあるものの、11月には、行内研修会実施にあたり指導計画通りに取り組んでいる。 |
| | 生指部 | 週1回の道徳の授業に加え、全校集会・学年集会を基本的に毎週実施している。学年内で事案が発生した際には、緊急で集会を開き、一斉指導や規律維持の徹底に努めている。今後も継続して実施していきたい。 |

| | | |
|-------|------|--|
| 取組内容④ | 国語 | 生徒が主体的に学習できるように、「話すこと・聞くこと」「読むこと」などの領域において、グループやペアワークを積極的に実施している。 |
| | 社会 | 教師との対話・生徒の対話をベースに言語活動を行っている。今後に向けて、言語活動を通して公民的資質の向上やICT機器を活用しながらの言語活動を行う。 |
| | 数学 | 問題練習の時間をできるだけとり、相談ができるような環境をつくっている。 また、1・2年生の授業については、グループワークを全体の6割以上行いスマールティーチャーを活用している。 授業内でのICT使用率を上げていく。 |
| | 理科 | 身近な化学現象について、生徒の対話を通して気づき、学べるようにグループワークやペアワークを積極的に取り入れている。また、対話の中で出た疑問について生徒と生徒、教員と生徒が相談できるような環境を作っている。 |
| | 音楽 | 歌唱指導、楽譜理解や音楽理解に自ら進んで活動を進めている。 |
| | 美術 | 作品の構想を練る場面においてペア学習やグループ学習を行い、話し合いの場面を設けることで、お互いのアイデアを共有することで考えを深めたり、広げたりすることができるようにする。 |
| | 保健体育 | 各單元ごとにペアワークやグループワークを導入し、生徒同士の学習に対する主体性を高めることで、互いが切磋琢磨しながら技能の習得し、定着できるようにしている。今後もグループワークやペアワークを効果的に取り入れ、学習成果を高めたい。 |
| | 技術家庭 | 実習を中心に積極的にグループワークを実施し、生徒同士が協力しながら思考を表現しようとする様子がみてとれるようになった。今後も他者から学び、個々人が技能を高められるように促していく。 |
| | 英語 | 授業中にペアワークやグループ学習を行い、言語能力を高める指導にあたっている。またC-NETの活用も積極的に行っている。 |
| 取組内容⑤ | 保健体育 | 今年度の2年生男子の20mシャトルランの平均記録は79.23回と、昨年度の記録77.4回を上回っていったが、令和4年度、5年度の記録を下回っている。来年度はさらに記録を伸ばせるように、持久力を高められるトレーニングを取り入れていく。 |

| | | |
|-------|------|--|
| 取組内容⑥ | 1年 | 行事や取り組みを通して、生徒間のコミュニケーションを図るとともに、生徒の実情に応じた指導を継続していく。 |
| | 2年 | 学級では班活動を積極的に行い、生徒同士が助け合いながら、活動することができている。また夏休みには各教科の補充学習会、テスト前には再テストを実施している教科もある。 |
| | 3年 | 教科によって授業内容に応じてペアワークや班活動を実施している。ICTの活用も増えている。各学級でも生活班を中心にお互い助け合いながら活動することができている。 |
| | 国語 | 授業内でのグループやペアワークを充実させ、協働的な学びを通じて、個人の考えを深めさせたい。また、個別最適な学びを通して、学習習慣定着できるように、ICTを活用していきたい。 |
| | 社会 | 今後も丁寧な授業と豊富な学習プリントで基礎学力定着をはかり、ニーズに合わせた授業スタイルを検討する。 |
| | 数学 | 復習プリント等を適宜作成ができるソフトを導入して柔軟にプリントを作成・使用している。 |
| | 理科 | 実験はできるだけ演示ではなく実際に行わせ、自然現象に直接触れる機会を多くしている。 |
| | 音楽 | 楽譜の書き方や音符・休符の種類などの基本的な学習から、応用・発展的な歌唱につなげている。 |
| | 美術 | 今後も興味関心をもてるよう効果的なICTの活用を工夫したり、積極的な机間指導を行ったりして、ひとりひとりのニーズに応じた指導ができるようにする。 |
| | 保健体育 | 生徒が興味・関心を持てるように授業の展開を工夫している。また、運動の苦手な生徒には個別の課題を設定する等、個に応じた指導も積極的に行い「運動・スポーツ」に対して前向きな気持ちで取り組めるよう指導している。 |
| | 技術家庭 | 製作課題に積極的に取り組んでおり、生徒一人ひとりが工夫を凝らすことを意識した実習がおこなえている。今後は発表の機会を設け、他者の作品を批評する活動を通してさらなる意識向上に努めていく。 |
| | 英語 | ICTやC-NETの活用を積極的に実施している。またペアワークやグループワークも取り入れ、学び合いの機会を多く持つようにしている。 |
| | 特別支援 | 教科への入り込みでは、個別に全体的に言葉かけをして指示の補足や学習内容のフォローを行っている。抽出授業では本人の特性に応じて課題を設定している。教室になじみにくい生徒に対しては登校支援という形で、サポートルーム自主課題を行う場や教員との対話の場として活用し、落ち着いて学校生活を送ることができるよう個別対応を行っている。放課後を活用し、自立活動として課題の取り組みを行っている。また、生徒の得意分野に着目し、伸ばす。 |
| 取組内容⑦ | ICT | 各教科の課題を中心に一人一台学習者用端末を授業内外で活用できる機会が増えつつあり、積極的に学習がおこなえる環境になっている。また、多様なアプリケーションを活用し、授業での生徒の主体的な学習の取り組みを進めている。心の天気等、幅広く、さらなる活用を目指していく。 |
| 取組内容⑧ | 管理職 | 職員会議のある日を「ゆとりの日」として設定し、定時で退勤できるよう取り組んでいる。また、夏季休業中における学校閉庁日については4日間設定し、祝日等も併せて9日間閉庁した。長期休業期間やテスト実施日など都合に合わせて年休を取得すること、ライフスタイル、体調に合わせて特休、年休等が取得しやすい職場づくりを心掛けている。引き続き、年休取得等が促進されるよう働きかけをしていく。 |